

interview

代表取締役社長
藤田 清志



新年おめでとうございます。2024年はTARGET550プロジェクトが4年目となり、2023年に達成しているグループ全体の売り上げ目標50億円の数字を、さらに伸ばしていく1年となりました。社員の皆さんには大いに努力していただき、感謝しております。今回は新年のご挨拶にあわせて、昨年の振り返りと2025年に注力していきたいことをお伝えいたします。

■ さらなる積み上げができた1年

2月の決算までの期間が残っていますが、2024年は業績が好調に推移しており、目標数値の達成が見込まれています。TARGET550の最終年を迎えるにあたり、順調なスタートを切ることが期待できるでしょう。5年で50億

円という大きな目標を超えられたのは、志村工業や誠和鉄筋のグループ参加も要因となっています。残り1年においては、藤工業株式会社単体で50億円の売り上げを目指していきたいと考えています。

■ 事故を予測する重要性

昨年、グループとしては事故が多発した年となりました。幸いにも大きな問題には至りませんでしたが、近隣住民やお客様に対してご迷惑をおかけしたことについては、真摯に反省する必要があります。トラック搬入時には、住宅の窓や排水桝を破損させてしまうトラブルもありました。原因の多くは確認不足に起因しています。新人社員は技術や経験の不足が一因となり、ベテラン社員は自身の運

転技能に過信があるとミスにつながる場合もあるでしょう。

「大丈夫だろう」という油断が思わぬ落とし穴を生み出すため、「何か起こるかもしれない」のように不測の事態に気を配る力が求められます。先輩社員は新人に事故予測の重要性を丁寧に教えて、全員が常に先を考え、確認を徹底する習慣を身につけていきましょう。人手不足の現状において、仕事に追われて注意力が散漫になることも懸念されます。この点については、今後グループ全体で改善に取り組んでいきたいと思っています。

■ 足もとを固める年に

TARGET550の進捗も順調な今、2025年は規模の拡大よりも、社内に目を向ける1年にしたいと思っています。たとえば各部署や工場における効率化。これまでは仕事量が増えれば人を増やすという対策を取ってきましたが、採用がどんどん難しくなる現状では、方針を見直さなければなりません。DXやIoTの導入で一人ひとりの負担を減らしつつ、「誰々がいないとこの仕事ができない」という属人的な仕事を減らしていく予定です。特に事務関連は重複する作業が多いため、まとめてシンプルにして効率を追求していきます。

こうした取り組みをスムーズに進めるべく、2024年は事業推進本部を発足しました。作業の円滑な促進を支えつつ、各部署・各工場の抱える問題を解決していく部署です。昨年とあわせて今年も引き続き、効率化と改善に努めていく予定です。

■ 自分が主体となって組織を動かす

2025年は安全を最優先にしつつ、売り上げと利益をさらに拡大し、次の時代に向けて成長の足掛かりを築く一年にしたいと考えています。そのために重要なことは、社員の自発的な思考と行動。特に管理職の方々には、自部門を牽引するリーダーとして先頭に立っていただきたいと思っています。安全、品質、コスト、さらには働く仲間の職場環境までも、自らが改善するという意識を持つ。ぜひ気概を持って、工場や部署、そして藤工業を引っ張るリーダーシップを発揮してください。変化と改善への第一歩は、行動を起こすこと。管理職に限らず全ての皆さんには自分の考えに基づいて、一歩を踏み出していいただければと思います。「知覚動考（ともかくうごこう）」、じっくり考えてから動く、行動するのではなく、遠慮することはありません、まずは「やってみよう」の精神で動きながら考えてみてください。「動知覚考（どうちかくこう）」、一番先に動く、行動して知って覚えて最後に考えるを実行する社員になることを強く期待しています。

2025年は、事故を未然に防ぐための教育と確認の徹底、さらに業務効率化を通じて社員一人ひとりの負担を軽減し、さらなる飛躍への準備を進める年にしていきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

拠点紹介 ～秋田工場編～

藤工業の各拠点を紹介していくこの企画。今回は秋田工場にスポットを当てます！2023年はある理由から、労災が発生してしまったという秋田工場。現在はどうな対策が取られているのでしょうか？小石さんと小川さんにお話を伺いました！



秋田工場 の概要

メンバー構成	工場内作業員:14名 事務員:3名 ドライバー:2名 計:19名
年齢層	20代から50代(特に30代と50代の人数が多い)
業務内容	戸建て住宅用の基礎鉄筋加工 二次製品の溶接加工
主な取引先	大手ハウスメーカー 建材業者 地元の左官屋さん

独自の取り組み

不安全行動に対する声かけを徹底

作業前の安全点検を徹底し、不安全行動に対する声かけを行っています。たとえば以前、クレーンで材料を吊り上げるとき、材料が斜めになっていたことがありました。水平でなければと思う事故につながることもあるため、すぐに声をかけ、荷物を下ろしてもらいました。

定期的に工場内の不要物を撤去

2023年は不要物が原因となり、労災が発生してしまいました。それ以来、壊れた機械などは定期的に撤去を行い、工場内の5Sを心がけています。



注目社員を紹介！ 小川 謙太さん

今後の目標

部署を超えて協力し合い、
新たな仕事を覚えていきたい！

より多くの方とコミュニケーションを取り、手伝えることがあれば積極的に協力していきたいです。普段も住宅班の仕事を手伝うことがありますが、他にも何かできることがないかと考えている最中です。また、溶接の作業を覚えることも目標の1つです。

私が紹介します！



秋田工場 工場長補佐 小石 淳さん

秋田工場の強み

忙しいときは各チームでサポートし合える

普段は製品ごとのチームに分かれて作業をし、各チームでサポートし合えるのが秋田工場の良いところ。お客様にご迷惑をおかけしないよう、人手が足りないときは、積極的に作業を手伝っています。

今後の目標

一人ひとりが、より多くの技術を身につける

まずは皆さんに、当工場で扱っているすべての製品を作れるようになってもらうことが目標です。その上でお客様を第一に考え、互いに助け合えば、売り上げもお給料も高まり、皆さんが幸せになるのではないかと思います。

普段の業務内容

戸建て住宅で使われるワイヤーメッシュを製造しています。また、BRS工法における鉄筋の引張試験も担当しています。

仕事で注力していること

声かけを積極的に行い、無事故無災害を目指す

現在、無事故無災害を目指し、安全対策を徹底しています。特に重視しているのは、作業員同士のコミュニケーション。クレーンで鉄筋などを運ぶ作業も多いため、通行道に人がいるときは、私も必ず呼びかけるようにしています。

機械を扱うときは必ず自分の目で確認する

工場内では自動機を使って作業しているのですが、鉄筋に手を挟まれたり、溶接時に手を火傷したりする可能性があります。事故防止のセンサーも付いているものの、それでも絶対安全とは言いきれません。大丈夫だろうと思いつつも常に疑い、自分の目で確認することを心がけています。

漢字一文字で表す！ 2025年の

抱負

2024年はどうな1年をお過ごしでしたか？3名の方に、2025年の抱負を伺いました。
より素敵な1年を過ごせるよう、皆さんも目標を立ててみてはいかがでしょうか？



志村工業株式会社 社長 佐々 正和さん

2024年はどんな年？

一言で表現すると、狭間の年でした。F Kグループの一員として迎えた三年目。以前は、自分(会社)から従業員への関係だったのが、今はF K(親会社)から自分(会社)を経て従業員へという構造に変わりました。藤田社長の存在が後ろにいてくれることで得られる安心感と同時に感じるプレッシャー、そして前には従業員がいてくれる頼もしさと不安。このように、狭間にいることで感じるやりがいと難しさを実感しています。

2025年の抱負

狭

2025年は私自身が50歳を迎える節目の年でもあり、残された時間の貴重さを深く考えています。そのため、一つひとつの選択を後悔のないよう真剣に決め、行動していきたいです。「そのうちやろう」ではなく、今やります。「後でやろう」ではなく、今やります。「やらないで後悔しないために」今やります。



北海道工場 山端 しのぶさん

2024年はどんな年？

事務所内のメンバーが変わり、今まで以上にお客様と関わる機会が増え、仕事の内容が濃くなった1年でした。



第2工場 場内長 室塚 哲生さん

2024年はどんな年？

工場の年間目標は達成できましたが、労働災害が発生してしまい、無災害にはできませんでした。2024年は大変忙しい年でしたが、一人ひとりのスキルを向上させながら、むだなく段取りを行い、効率良く機械を動かした結果、達成に繋がったと思います。

2025年の抱負

和

人間関係に少しづれが生じたときもあり、2024年はコミュニケーションの重要性を改めて実感しました。人と人とのつながりがあれば、問題を解決できると感じています。また、各工場の方々にもお力を借りる場面があり、藤工業の絆をさらに深められるよう、積極的に情報交換を行っていきます。さらに、パソコンを学び、時代に取残されないよう努めていきます。

2025年の抱負

変

変化の「変」です。年々受注数が増えてきているので、スムーズに作業を進めていけるようにします。今までのやり方や重複している作業を見直し、臨機応変に行動してどんどん変化していくことを意識する1年にしたいと思います。